



ハイキングスタート!  
湯ノ湖畔にて

今年度も、古里小学校と氷川小学校の6年生が、合同で日光移動教室を実施しました。  
直前に学級閉鎖等もあり、児童の体調が心配されましたが、当日は全員が元気よく出発することができました。  
また、3日間天候の影響を大きく受けることもなく過ごすことができました。

6年生 日光移動教室  
7月25日～27日実施

奥多摩の教育  
第233号 発行  
奥多摩町教育委員会

令和5年8月1日現在  
児童数 143名  
生徒数 65名  
教職員数 44名

1日目、学校を出発して昼食をとり、日光東照宮へと向かいました。教科書やガイドブックを見るだけでは感じることで見えない、歴史的建造物の重厚で厳かな雰囲気、子どもたちは心を奪われたようでした。宿に到着した後、日光の伝統文化である日光彫を体験しました。自分で用意した下絵を写し取り、独特な彫り方を教わりながら彫りました。慣れてくると、自分でどんどん彫り進められるようになり、すてきな作品をつくることができました。  
2日目は戦場ヶ原のハイキングからスタートです。湯ノ湖を半周して湯滝を通り、竜頭ノ滝までのコースを歩き切りました。竜頭ノ滝を見ながら食べるソフトクリームは格別のおいしさだったようです。その後、中禅寺湖の展望台、そして華厳ノ滝を巡りました。華厳ノ滝では、毎



大迫力の華厳ノ滝

秒2トンの水量にとっても驚いた様子でした。夜は宿の方のご協力、肝試し大会をしました。本格的な肝試しに、子どもたちは大盛り上がりでした。  
3日目、お世話になった宿に別れを告げ、日光江戸村へと向かいました。行動班で協力して体験や昼食の計画を立てるなど、主体的に行動することができました。ミールクーポンの使い道に悩んでいましたが、「とても楽しかった。」「食べたい物を食べられたからよかった。」という声が多く聞かれました。  
3日間があつという間に過ぎていった日光移動教室。残り少ない小学校生活にまた一つ大きな思い出を作ることができました。中学校進学に向けて両校の交流が深まるなど、充実した移動教室になりました。

報告 古里小 東佑太郎



1日目の地引網体験、2日目  
今回の移動教室には、大きく2つの目標がありました。  
○山地の奥多摩町と比較しながら、海沿いの伊豆の環境や産業について体験を通して学ぶ。  
○古里小学校児童と氷川小学校児童で協力して生活することを通して、高学年としての責任感や行動力を培う。

5年生 伊豆移動教室  
7月13日～15日実施

の青果市場見学とスノーケリング体験、3日目の寄木細工体験と、たくさんの体験活動から、子どもたちは五感を使って多くのことを学ぶことができました。

2日目のスノーケリング体験は、それまで降っていた雨が止み、絶好のコンディションの下で実施することができました。よく晴れて澄んだ海の中には、奥多摩では見られない生き物がいて、子どもたちは興奮した様子でした。奥多摩で見られる山の環境のよさと同じ様に、海の環境のよさも感じ取り、もっと知ってみたいという気持ちをもつことができました。

28人の子どもたちは、3日間寝食を共にすることで、主体的に行動する力と、協力し合う力を、どんどん高めていました。



初めは、何をすることも時間がかかっていたことも、素早く終わらせることができるようになってきました。

2日目の午後からは、自分たちで予定表を見て自主的に行動し、引率をしている教員の指示を待つことなく、行動できました。時間を上手に使えたことで、子ども同士で楽しむ時間をたくさん確保でき、思い出に残る3日間にすることができました。

5年生に素晴らしい経験をさせてくださった関係各所に、心から感謝しております。ありがとうございました。

報告 氷川小 國井樹貴



✳️教育相談室より✳️

「どう生きるか」

相談員 石上和伸

宮崎駿の新作映画が、10年ぶりに公開されました。私はまだ観ていないのですが、題名が「君たちはどう生きるか」。吉野源三郎が1937年に書いた小説にインスパイア（感化）された題名とのこと。私はこの本も読んでいないのですが、数年前に漫画版としてリバイバルヒットした際に、家族が買ってきて読んでいた記憶があります。私が最近読んだ本の中にも、吉野さんの本にインスパイアされているものがありました。梨木香歩さんの「僕は、そして僕たちはどう生きるか」です。こちらは主人公の名前が吉野さんの本にちなんで付けられています。1937年と言うと今から86年前、日中戦争初期で、同年には盧溝橋事件ろこうきょうじけんが起きています。

そんな前の小説が、なぜリバイバルしたりインスパイアされたりするのか？ヒントは「どう生きるか」の題名にあるような気がします。

「どう生きるか」と問うことができるのは、一定の生活の余裕、心の余裕が確保されるからこそ。一方「問い」の必要性からは社会が不安定、もしくは変動への兆しも感じられます。ちなみに梨木さんの本が発行されたのは、2011年東日本大震災の年です。映画や本は、内容も方向性もさまざまです。共通しているのは、若者が周囲の出来事の中で、困難に出会いながらも、自分の頭と心で、「どう生きるか」を考え、折り合いをつけ、自らの生き方を探していく姿でしょう。私たち大人が、モデルを示せていないとも言えますが、「僕は」と考えることは大切です。

作品では主人公が、自分の道を見付け歩み始めます。しかしそこには、必ず主人公に寄り添い、示唆や刺激を与え喚起を促す年長の先輩が登場します。相談室でも子どもたちと話をする機会が多くあります。私たちの言葉が、「どう生きるか」自ら答えを見付け歩み出す子どもたちの力になってほしいと願っています。



# 奥多摩中学校の特色ある教育活動

## (1) 教育目標達成に向けた2つの柱

- ① 地域を大切にする生徒を育てるために：「地域を支える人材」の育成  
ESD（持続可能な発展のための教育）を柱に、持続可能な社会の形成者としての能力・態度を育てます。
- ② 21世紀をたくましく生きる生徒を育てるために：「社会の中で自分のよさを生かせる人材」の育成  
キャリア教育（社会人として自立していくことができるようにする教育）を柱に、社会の中で役割を果たしながら自分らしく生きていく能力・態度を育てます。

## (2) 「ESD」及び「キャリア教育」を通して育む「3+1の力」

本校の教育の基盤は、「全員支援教育」です。これは、全ての生徒に対して、必要なときに必要な支援を組織的に施していくものです。この基本理念の下、主体的・協働的な学びを通して次の力の習得を促します。

- ① 「主体性の基盤となる自己管理能力」
- ② 「協働を支える人間関係形成能力・豊かな心」
- ③ 「主体的・協働的な課題対応能力」

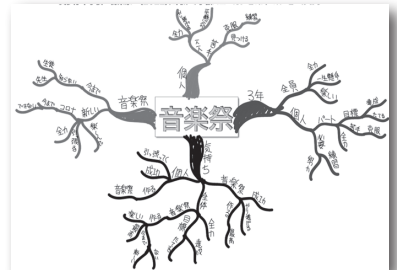
以上の力を基に、自らの将来を考えることを通して「社会と関わり、自己の可能性を発揮しながら、よりよく生きていく力」の習得を促します。

## (3) 効果的な実践に向けた3つのツールの活用

- ① 「ICT機器の活用」による効率的な学びの促進
- ② 「マインドマップの手法」による思考力・判断力・表現力発揮の促進
- ③ 「プロジェクトアドベンチャーや構成的グループエンカウンター」を活用した主体的・協働的な学びの促進

### マインドマップ

自由な思考、アイデアや情報を枝分かれの図で表した思考ツールです。専門家の指導のもと講習を受け、その後、授業や行事などさまざまな場面で活用します。



### プロジェクト・アドベンチャー

体験を通して仲間と協働し、信頼関係をつくりながら気づきを得る体験学習です。本校では、体育大会の導入として全校縦割りグループでさまざまな活動に挑戦します。

### 構成的グループエンカウンター

学級満足度調査 (hyper-QU) の分析結果を基に、それぞれの学級の人間関係の成長、改善を促す活動です。教員研修にも位置付けて、定期的実施しています。



# 古里小学校の特色のある教育活動

教育目標「命を大切に 共に輝き 生きていこう」 かしこく なかよく たくましく

古里小学校は、子どもたちの元気と笑顔でいっぱいです。

全校児童82名の子どもたち一人ひとりが、学習に運動に一生懸命に取り組んでいます。

「かしこく・なかよく・たくましく」を合言葉に、今年度も子どもたちの健やかな成長のために、教職員一同手を取り合って教育活動を進めています。



## <表現力向上の取組>

古里小学校では、年間を通して詩や九九の暗唱検定を校長室検定と銘打って実施しています。また、学期に数回ずつ音楽朝会と音読朝会を設けています。音楽朝会では、のびのびとした声で体全体を使って歌い、音読朝会では、抑揚を付けたり声を合わせることを意識したりしながら、詩をみんなで群読しています。

このような言語活動を通して、自信をもって表現できる子どもの育成を図っています。

## <読書活動の取組>

図書室に入ると、季節に合った装飾やおすすめの本コーナーなど、子どもたちが本に触れたいくなるような仕掛けが満載です。学期ごとに親子読書旬間を設定し、親子で読書を楽しんでもらったり、保護者ボランティアの方々による絵本の読み聞かせを実施したりしています。地域の図書館とも連携し、豊富な蔵書数の中から好みの本を借りることができます。



## <体験学習の充実>

地域の自然や文化を生かした教育活動(奥多摩学習)を推進し、ESD・SDGsとの関連を図りながら各種体験学習を充実させ、児童の興味・関心を高めるとともに、郷土を愛する心の育成を図っています。

わさびやしいたけの植え付け、よもぎ団子作り、米作り、ヤマメの飼育、林業体験、落語教室、生け花教室など、地域環境・人材を有効活用しながら実施しています。



# 東京の最西端から最先端の教育を 氷川小学校の特色ある教育

## 鍛え、逞しく

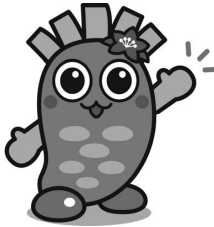
氷川小学校では、を合言葉に、予測困難な未来を生きていくために必要な力を児童一人ひとりに身に付けさせることを目指して、教職員が一丸となって61名の児童の指導に当たっています。

現在氷川小学校において力を入れて取り組んでいる指導は、以下の3つの指導です。

「強み」を  
自覚させる指導

多面的・多角的に  
考えさせる指導

自己有用感を  
育てる指導



## 「強み」を自覚させる指導

社会において力を発揮し、集団に貢献するためには、自分の能力を適切に把握する必要があるとあります。児童は多くの伸びしろがあり、成長できる可能性を無限に秘めています。その成長の可能性を自覚させることを、教育活動の中で意図的に指導しています。

学校の教育活動の中で身に付けた力を、各教科の学習や学校行事、縦割り班活動などを通して実践的に活用できる場を、意図的・計画的に設定しています。身に付けた力を活用し、「成功できた!」と実感できる場面をたくさんつくっていくことで、児童が自らの「強み」

に気付くことができ、そのようなにしていきます。



## 多面的・多角的に 考えさせる指導

科学技術や情報技術が発展している現代は、日々状況が目まぐるしく変化しています。今の児童が大人になり仕事に就く頃には、更に社会の様子は大きく変わっているだろうと言われています。どのような状況になっても対応できるように、小学校段階から状況を適切に把握して分析する力を身に付ける必要があります。

学習指導や行事の指導の場において、教師の話を必要最小限にして、児童自らが考え、児童同士で対話する時間を多く確保するようにしています。学習者である児童が主体的に学ぶことができるようにしています。

また、学習において児童が自分の考えをもつことができるように、各教科の「見方」と「考え方」を使って考えさせる指導をしています。「見方」と「考え方」を整理することで、児童への問い掛けや、提示する教材を工夫しています。今年度の校内研究のテーマにし、全教職員で研究を重ねています。

## 自己有用感を育てる指導

自分の役割に応じた活躍で、社会や集団に貢献する力も必要になります。その力の素地を鍛えるためには、日々の活動の中で、自分は集団の中で必要とされているという思い、自己有用感を高めていくことが大切だと考えています。

小規模校のメリットを生かし、児童一人ひとりに活躍する場を学校行事や縦割り班活動などの場で多く設定しています。学校行事を行う際、高学年の児童が中心になって実行委員会を結成し、児童同士の話し合いを通して行事の企画や運営の一部を担当させるようにしています。教師は極力見守ることに徹しています。

児童にとつて難しい取組ですが、やり切ることで自己有用感を大きく高めています。



### 【奥多摩町立小学校の あり方検討委員会について】

奥多摩町立小学校のあり方検討委員会については昨年、保育園、小学校保護者の皆様  
に検討委員会を設置することをご説明させて  
いただき、その後検討委員会を設置し、5回  
開催しました。その結果、次のとおり今後の  
検討委員会の目的・設置基準等を定めまし  
たので報告します。

#### ○今後の検討委員会の目的

児童・生徒の人口が減少する中、学び  
の質、人間関係構築力の育成をはじめとし  
た将来の問題解決を図る検討機関として設  
置します。

役割については現状分析・評価(メリッ  
ト・デメリット等)を行い、小学校の統合の必  
要性や統合しない場合の学校運営について  
協議するものです。

#### ○今後の検討委員会の設置基準

古里小学校・氷川小学校いずれかの学校  
の児童が42名以下、または連続する学年  
の児童が7名以下の場合

#### ○委員構成 30名以内



前町教育長職務代理者  
故石田 充法氏  
叙位・叙勲授与

前町教育長職務代理者、元氷川中学校校長・  
石田充法氏は、令和5年2月25日に逝去され、  
叙位従六位、叙勲瑞宝雙光章が授与されました。  
石田氏は、昭和46年小河内中学校教諭とし  
て着任され、平成9年4月から青梅市立霞台  
中学校校長、平成13年4月から奥多摩町立氷  
川中学校校長を歴任、学校教育の発展に多大  
な貢献をされました。  
一方、昭和54年から生前まで町文化財保護  
審議会委員(平成27年〜同会長)、平成27年か  
ら生前まで町教育委員(平成28年〜同教育長  
職務代理者)など町の要職を歴任され、令和  
3年には都知事表彰・文化功労、同4年には  
文部科学大臣表彰・地域文化功労を受賞され  
ました。

## 第30回 中学生海外派遣事業実施

今年で第30回目となる中学生海外派遣事業として7月28日か  
ら8月9日までの13日間、オーストラリア・ニューサウスウェー  
ルズ州・バイロンベイへ、中学生8名を派遣しました。  
この事業は海外の伝統や文化を肌で感じ取り、国際的な視野  
をもった中学生を育成することを目的としています。

帰国後も海外派遣をとおして体験した事を活かし、町のイベ  
ント・学校・地域において活躍することを期待しています。

